

07.11.28

小学校教材の案（学級活動の授業として）

大田区立東調布第一小学校教諭 木村 夏子

はじめに

学校生活においては、教師が定めた「約束やきまりを守る」という場面がほとんどをしめる。例えば、生徒指導上、学校には次のような決まりがあることが多い。

< 資料：〇〇小の生活 >

登校

- ・登校時間は8：15から8：25です。4列ですわって待ちましょう
- ・8：15から校舎内に入れます。前から5人ずつ、歩いて入りましょう。
- ・2年生以上の学年は、8：20までランドセルを通用門（プール脇の門）の所において遊ぶことができます。8：00前には登校しないように、家を出る時間を工夫しましょう。
- ・忘れ物は絶対に取りにもどってはいけません。先生に相談しましょう。

名札

- ・朝、名札をつけて、帰りに、はずして箱に入れます。
- ・名札は、左胸の見やすいところにつけます。
- ・学年カラー

1年 桃 2年 オレンジ 3年 黄 4年 黄緑 5年 水 6年 白

朝会・集会

- ・8：30開始です。場所を確認して、集谷しましょう。

遊びについて

外遊びか内遊びは、正面玄関の「あり・なしボード」を見ましょう。

ボールの使用

- ・クラスのボールを使い、後かたづけもしっかり行ないましょう。
- ・ボールをける遊びは、朝と放課後にできます。

一輪車の使用

- ・放課後、使うことができます。
- ・乗っていい場所で、乗りましょう。後かたづけもしっかり行ないましょう。

場所

- ・決められたところで安全に遊びましょう。
- ・体育館と屋上の割り当ては、表の通りです。

	月	火	水	木	金
体育館	1・2年	3年	4年	5年	6年
屋上	6年	1・2年	3年	4年	5年

必ず学年の
先生がいっし
よ
に行きます。
入り口で待ち

放課後遊び

- ・4時まで遊べます。ランドセルは犬走りに1列にならべます。
 - ・クラブの日や先生方の会議などで、遊べない日もあります。玄関の掲示板を確認しましょう。
 - ・授業のじゃまにならないところで遊びましょう。
- (体育などで、校庭を使っているときはまわりの遊具のところで遊びます。)

雨の日の遊び

- ・雨の日は、教室で遊びを工夫して安全に過ごしましょう。

持ち物について

- ・学習に必要な物を忘れないように、前の日に時間割をそろえましょう。
- ・筆箱、下じき、ハンカチ、ティッシュペーパー、ランチマット、連絡帳、自由帳は、毎日持ってきてきましょう。
- ・学習に必要なものはない物は、持ってきてません。

下校

- ・下校時刻は4：00です。
- ・仕事などで4：00以降に残るときは、必ず担当の先生の許可を得ましょう。
- ・下校後、学校に忘れ物を取りにこないようにしましょう。
(薬などどうしても必要な物は、保護者の人と取りにきましょう。
そのときには、受付のノートに記名して、用務(警備)主事さんに、
ことわってから校舎内に入りましょう。)
- ・朝と同じ通学路を通って帰ります。寄り道はしません。

このようなきまりを示され、日常の指導を受けている児童にとっては、法=約束やきまり、守らなければならないという意識が強くなるのは当然と言える。また、教師自身にも、「きまりだから守らせる」という意識があり、児童の行動を規制することのみに重点が置かれてしまうという問題が生じやすいと考える。

「自由で公正な社会を支える『法』的な考え方を育てること」「一人一人が自由で公正な社会の担い手として、公共的な事柄に主体的に参観する意識を養う」という法教育

の基礎を築くには、特別活動、中でも学級活動の指導を低学年から確実に積み重ねる必要がある。

1. 公民的な資質を育てる学級活動

ルールづくりの基本である話し合いの活動が、学級活動の生命線である。そのオリエンテーションの授業が、公民的資質を育てる入門期の指導と言えよう。

<学級活動（1）学級会～話し合いの活動～ のオリエンテーション資料> 3年生

（1）主体的に問題解決に参加する態度を育てる

T 学級会の時間は、学級生活がよりよくなるために、みんなでやりたいことを決めてできる時間です。そのために話し合うことは、学級の全員に関係があって、自分たちの手でやりとげられることが大切です。

T 早速、みんなでやりたいことを決めてみよう。

C なわとび大会がしたいなあ。

C ドッジボールがしたいよ。

C 金魚を飼おうよ。

C みんなで新聞を作りたい。

T みんなで勝手にやりたいことを言ってたってだめでしょう。だから、話し合いが必要なのです。

T 議題を決めるときには次のことに気をつけよう。

○ 学級の中で、楽しく、くらしやすくなることか。

○ 今すぐ話し合う必要があることか。

○ クラスみんなに関係があることか。

○ 話し合って決めたことは、最後まで自分たちの手でやりとげられることか。

T 学級会の活動は、自分たちで計画を立て、みんなで協力して最後まで実行していくものです。次のようなことは担任の先生に相談して、先生に決めてもらいます。

<自治的活動の範囲>

①お金に関係すること

②食べ物や安全に関係すること

③時間割に関係すること

④学校の施設を使ったり、学校の外に出て活動したりすること

自分たちで解決できる範囲を超えていることは、取り上げられません。

（2）多様な考え方を尊重し、共に協力していこうとする態度を育てる

T 話し合いを進めるときに司会が気をつけることは・・・

- ①なるべく多くの人に発言してもらおう。
- ②何を話し合うのか、確かめながら進める。
- ③話が横道にそれたらもどす。
- ④少数意見も大切に、よいところをとりあげる。
- ⑤一つ一つ決めてから前へ進める。
- ⑥急いで決めないで、みんなが納得できるようなやり方でまとめる。
(安易な多数決は避ける。)
- ⑦勝手に話し合いの結果を変えない。
- ⑧話し合いの柱によって司会を交代してもよい。

T 意見を述べるときには・・・

- ①自分の考えをはっきり述べる。
- ②相手の意見をよく聞いて、その意見と比べながら自分の考えを述べる。
- ③みんなによく分かってもらえるように、考えた理由を明らかにしたり、実践への見通しを考えて述べる。
- ④提案理由に沿って意見を述べる。

T 話し合いをまとめるときには・・・

- ①多くの意見が生きるように
- ②少数意見を大切に
- ③みんなが納得する方法で

(3) 行動に責任をもつ態度を育てる

T みんなで決めたことは必ず実践します。

2. 切実感のある議題・題材

児童自身の利害にかかわる議題・題材を選ぶと、自ずと主体的に話し合いに参加し、もんだ解決に意欲をもつ。意見を対立を乗り越えて決めたことを実践できたときこそ、集団の凝集性が高まり、児童の成就感、達成感も大きくなると言える。

<議題例>

「20分休みのクラス遊びの回数を決める」

- ・週1回がいいか、2回がいいか
- ・何曜日がよいか

「学級新聞の発行の回数を決める」

- ・楽しみにしているので週1回発行してほしい。
- ・係は準備が間に合わない。

「お楽しみ会の内容を決める」

- ・スポーツ大会がいい。
- ・スポーツが得意でないから楽しめない。

「掃除を時間内に協力して終わらせるにはどうすればよいか。」

- ・サボった人は次の日その人だけで掃除をする。
- ・一人一人の役割をはっきりさせてサボれないようにする。
- ・班対抗掃除コンテストを開く。

「給食の配膳を待っている間の過ごし方を考えよう。」

- ・読書したい。
- ・なぞなぞ係の大切な活動時間をなくさないでほしい。
- ・音楽係もリクエストに応じて音楽を流したい。

「給食のおかわりじゃんけんは公平なやり方か」

- ・順番にしたい。
- ・じゃんけんするのが楽しいから少し不公平でもいい。
- ・くじ引きがいい。

「(クラブ設置の際) 希望人数が少ない演劇クラブとダンスクラブを合わせて一つのクラブにしてはどうか」

- ・やりたいことが違うから一つにはできない。
- ・人数が少ないと廃部になってしまうから、一つにして内容を交互にすればいい。

「屋上遊びのとき、6年生が広く使って5年生が入れないから、20分休みは6年、昼休みは5年と分けてはどうか。」

- ・昼休みは掃除の後で短くなることが多いから、不公平。
- ・屋上を半分に分けて使えばいい。
- ・遠慮しないで5年も遊べば6年生も譲る。

おわりに

資料にあるような「約束・きまり」は、大きな集団の生活を円滑に進めるためには必要なものである。しかし、子どもたちが主体的に「法」にかかわろうとするときには、教師が柔軟な態度を示さないと、子どもたち自ら声を発することが難しくなる。特別活動で取り上げる問題は、「仮」ではなく「実際の生活の諸問題」であるので、子どもたちに考えさせるからには、問題解決から実践まで任せることの内容を吟味して与えなければならない。そして、子どもたちなりに結論を導き出すまでに、かかる時間を保障することも忘れてはならない。

話し合いを進めるときに司会
行事」があり、その基礎となる活動は「学級活動」にあると考える。

学級活動には、活動内容として、

(1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること

(2) 日常の生活や学習への適応及び健康や安全に関すること

がある。特に(1)では「学級や学校における生活上の諸問題の解決、学級内の仕事の分担処理など」とあるように、児童の実生活にある身近な問題を自主的に解決する体験活動がその内容となっており、法教育の「ルールづくり」「ルールに基づいて、どのように問題解決を図るか」を学ぶよい場と機会を与えるものであると考える。

活動内容(1)として、話し合いの活動、係の活動、集会の活動があるが、基本となるのは話し合いの活動であると考え。(児童会活動においては、代表委員会活動、委員会活動、児童会集会活動があり、代表委員会活動が基本となる。)

特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる」であり、公民(市民)としての資質を養う法教育の求めるところと重なるところが大きい。また、学級活動(1)、クラブ活動、児童会活動では、教師の適切な指導の下、児童の自発的自治的な活動が展開され、学級、クラブ、委員会、児童会(全児童によって組織される)などの集団＝小社会において、体験を通して公民(市民)としての基礎を養うことができる。

話し合いの活動では、解決したい問題が「議題」として提案され、決められた手続きを踏んで集団の成員によって承認されたものについて話し合う。話し合いは、民主的に運営され、集団決定したものは必ず実践に結び付く。実践を振り返り、問題が生じたときには、新たな議題が提案され、次の実践の学びとなって実を結んでいくのが特別活動の実

践の積み重ねである。

民主的な運営による集団決定は、安易な多数決によるものではなく、決定に至る過程を重視し、十分な討議を経て、「わたしにとっても、あなたにとっても、みんなにとってもよい」と成員が納得する結果が得られることを目指すものである。そのために、適切な指導助言を行うことが、自主的実践的な態度を育てる上で重要であるとする。

以上の点をふまえて、以下の実践を提案したい。

【事例1】

1 対象 2年生（低学年）学級活動（1）話し合いの活動

2 事例 議題「クラスボールの使い方を決めよう」

3 ねらい

- 休み時間に、クラス全員が、公平にボールで遊べるルールを決めることができる。
 - ・ クラスの中で一部の者しか、ボールで遊んでいない実態を理解する。
 - ・ 遊びたいと思っても遊べない友達の思いに気付く。
 - ・ みんなが楽しくボールで遊べるようにするにはどうしたらよいか考える。
 - ・ 約束を決めて、みんなが公平に遊べるようにする。

4 授業のおおまかな流れ

問題提起 : いつも男の子ばかりボールを使っていて、女の子にボールを使わせてくれない。⇒A子 議題箱に入れる。

議題として取り上げる

: 帰りの会で、学級全員で話し合い、次回の議題「クラスボールの使い方を決めよう」として取り上げることを決める。

話し合い : (児童の司会により進行する。)

○ボールを使う日を、月・水・金は男子

火・木は女子にする。

・女子が2日、男子が3日で不公平。

○20分休みが男子、昼休みが女子にする。

・昼休みは掃除が長引くから短くなってしまう。

・月曜は昼休みがないから、男子のほうが多くなる。

○席の列ごとに分ければいい。

・遊びたい人が別の列にいたら困る。

◎男子と女子に分けるんじゃなくて、一緒に使えばいい。

・女子と一緒にだと強く投げられないから困る。

・女子にも強く投げられる人もいる。

・体育のドッジボールみたいにルールを工夫すればいい。

※体育の学習との関連

決定☆男女一緒に使う。

ボールを使うときは「ドッジボールやる人！」と誘ってから校庭に出て、一緒に遊ぶ。

教師の終末の助言

： A子さんが「ボールで遊びたい」と議題箱にカードを出してくれたから、いつも遊んでいる男子に分かってもらうことができた。
男女一緒に使えるようになってきっと男女仲良くなると思う。

実践 ； 話し合い後、ボールを一人で持っていこうとするB男をみんなの声が止める。「みんなで決めたじゃない。」「一緒に入れて！」気付いたB男はあわてて「ドッジボールやる人！」とみんなを誘った。

【事例2】

1 対象 4年生(中学年)学級活動(1)話し合いの活動

2 事例 議題「スポーツ大会の種目を決めよう」

3 ねらい

- みんなが楽しめて、終わった後にクラスがもっと仲良くなれるスポーツ大会の種目を決めることができる。
- ・ 以前、ポートボールをしたときに、勝敗のことで言い争いがおきてしまった経験を生かす。
- ・ 事前のアンケートで野球とサッカーがほぼ同数になっていることから、どのように折り合うか考える。

4 授業のおおまかな流れ

議題として取り上げる

： 2学期の集会をスポーツ大会にしたいという提案があり、帰りの会で、次回の議題として取り上げることを決める。

事前の準備

： 計画委員会がスポーツ大会でやりたい種目のアンケートをとる。

話し合い ； ○アンケートの結果を踏まえ、野球とサッカーにしばって話し合う。

○野球がいい。

- ・ 初めてだからやってみたい。
- ・ 思いっきり打つと楽しい。
- ・ 打順が回ってこないとつまらない。
- ・ チームに入っている人が強すぎて、おもしろくない。
- ・ うまい人は教えてあげればいい。

○サッカーがいい。

- ・ 人数が多くてもできる。
- ・ 止まっている人がほとんどいなくて楽しい。
- ・ ボールが回ってこない、ひまになる。
- ・ チームに入っている人だけでボールを回してしまいそう。

◎意見が半々に分かれているから、どちらかに決まると負けた感じがする。

○くっつけてキックベースにすればいい。

- ・初めてやるからルールがわからない。
- ・大体決めておいて、やってみる。
- ・放課後試してから決めるのがいい。
- ・強くいけないから、うまくいか不安。
- ・ピッチャーに「ゆるく投げて」って言えばいい。

☆苦手な人への特別ルールを決める。

～後略～

【事例3】

1 対象 代表委員会活動 4～6年

2 事例 議題「子どもまつりの約束を決めよう」

3 ねらい

- 「笑顔であいさつ みんな大好き ○○小」を合言葉に、子どもまつりが成功するように、子どもまつりの約束を決めることができる。
 - ・ お店を出すとき、お店をまわるときに分けて約束を考える。
 - ・ 昨年度の反省を生かして約束を決める。

4 授業のおおまかな流れ

- 計画委員会で、昨年度の反省を読み合う。

<話し合い>

- お店を出すとき
 - ・ 必ずあいさつをする。
 - ・ 名前を呼んであいさつできるように工夫する。
 - ・ 名前が覚えられるように工夫する。
 - ・ やりかたをわかりやすくする。
 - ・ ごみが出ないように工夫する。
 - ・ 低学年は、賞状やプレゼントを出したいと思う。
 - ・ もらっても捨ててしまう人がいるから、ごみになる。
 - ・ 一生懸命作ってくれたものを捨てるのはよくない。
 - ・ なるべく小さいものにして、紙の無駄遣いをやめる。
- お店をまわるとき
 - ・ お店のやり方をよく聞いてやる。
 - ・ 廊下を走ったり、大声を出したりしない。
 - ・ なるべくたくさんのお店をまわる。
 - ・ 学年で「○個以上のお店をまわる」とめあてを決める。
 - ・ 帰るときにお店の人に感想を言う。
 - ・ お店のいいところを見つける。

○ 全体

- ・ お店の案内図をカードにつける。
- ・ 本部を作って、困った人の相談にのる。
- ・ 放送で交代の合図を知らせる。
- ・ 交代5分前に音楽を流して知らせる。
- ・ パトロール隊を作って、約束が守れるように呼びかける。
- ・ お店のよかったところを感想カードに書いて読み合う。

<実践>

- ・ 決まったことは、計画委員、代表委員を通じて全学年に知らせる。
- ・ 昼の放送、新聞委員会の臨時号でも子どもまつりを特集し、約束を徹底する。
- ・ 全校児童の感想カードを玄関に貼り、交流を図る。